

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 24 回 輸送容器分科会 (F3SC) 議事録

1. 実施日時 : 平成 22 年 11 月 18 日 (木) 13:30~15:00
2. 実施場所 : (株)オー・シー・エル 東京本社 大会議室
3. 出席者 : (敬称略) 開始時
(出席委員) 有富 (主査), 久保 (副主査), 松本 (幹事), 浅見, 池田, 伊藤, 大岩, 木倉,
清水, 滝谷, 林, 丸岡, 横山 (13 名)
大西 (13:50~出席) (1 名)
(代理出席委員) 村中 (大上代理), 溝渕 (川上代理), 海老原 (広瀬代理), 石生 (横山
代理), 高橋 (谷内代理) (5 名)
(欠席委員) 道券 (1 名)
(常時参加者) 西野, 植木, 藤本, 磯部, 溝渕 (5 名)
(欠席常時参加者) 日下, 山内, 森本, 熊野, 藤田 (5 名)
(常時参加者候補) 高荷, 上田 (2 名)
(傍聴) 望月 (1 名)
(事務局) 谷井

4. 資料

第 24 回輸送容器分科会座席表

- F3SC24-1 第 23 回 輸送容器分科会議事録 (案)
- F3SC24-2-1 原子燃料サイクル専門部会の活動状況
- F3SC24-2-2 標準委員会の活動状況
- F3SC24-3 人事について
- F3SC24-4 第 23 回 輸送容器分科会 コメントリスト
- F3SC24-5 『使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準:2006』の改定案に関する中間報告について
- F3SC24-6 『使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準:2006』の改定前後表 (案)
- F3SC24-7 『使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準:201*』「附属書」、「解説」検討資料
- F3SC24-8 使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準:201*』完本版 (案)

参考資料

- F3SC24-参考 1 輸送容器分科会委員一覧 (案)
- F3SC24-参考 2 輸送容器分科会常時参加者一覧 (案)

5. 概 要

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会 第24回 輸送容器分科会 (F3SC) が開催され、「使用済燃料・混合酸化物・高レベル放射性廃棄物輸送容器の安全設計及び検査基準：2006」の改定案について、内容の確認及び検討を行った。

6. 内 容

(1) 出席者の確認

事務局より、開始時 20 名の委員中、代理出席を含め 18 名の出席があり、分科会成立に必要な委員数 (14 名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録確認 (F3SC24-1)

前回議事録は、欠席常時参加者の人数を 1 名→3 名に訂正した上で承認された。

(3) 人事について

事務局より、F3SC24-3 に沿って、海老原 雅典氏(原燃輸送(株))及び藤田 佳之氏(原燃輸送(株))が常時参加登録を解除されたことが報告された。

続いて、事務局より、F3SC24-3 に沿って、高荷 道雄氏(原燃輸送(株))及び上田 敬史氏(原燃輸送(株))が常時参加者登録を希望している旨紹介され、決議した結果、常時参加者登録が承認された。

(4) 原子燃料サイクル専門部会及び標準委員会の活動概況の報告

事務局より、F3SC24-2-1 及び F3SC24-2-2 に沿って、原子燃料サイクル専門部会及び標準委員会の活動状況について報告が行われた。なお、標準委員会において行われた「ウラン取扱施設におけるクリアランスの判断方法(案)」の書面投票では、反対票が 1 票あったため、可決されておらず、現在調整中との報告があった。

(5) 輸送容器分科会コメントリストの確認

溝渕委員より、F3SC24-4 に沿って、輸送容器分科会コメントリストの確認及び対応案について説明が行われた(第 23 回分科会以降のコメントは、No.12~No.24 であり、No.14 及び No.19 については、第 23 回分科会までに回答し了承を得ているものである)。対応案については、全て了承された。

(6) 輸送容器の安全設計及び検査基準標準の主要な変更内容について

溝渕委員より、F3SC24-6 及び F3SC24-7 に沿って、標準改定案について、改定内容及びその理由等について説明が行われた。主な議論等は以下の通り。

- ・ 4.2.3c) 臨界防止設計の設計方法 1.1.2) の文章 (“収納物がバーナブルポイズン

として燃料ペレットにガドリニウムを含んだ使用済燃料においては、……”→(修正案：“使用済燃料において、収納物がバーナブルポイズンとして……”)について適切な表現に見直すこと。

- 附属書 B の表 B.2 収納物収納装置のアルミニウム合金, ほう素添加アルミニウム合金における熱の設計基準の項において, “JSME S FA1-2007 の事例規格 FA-CC-001 ~003 及び 005 に規定するアルミニウム合金又はほう素添加アルミニウム合金では, FA-CC-003 及び 005 に 225°C~250°C までの設計用強度・物性値があり……”とあるが, FA-CC-001, 002 においても温度を規定している。この書き方だと, 温度についての規定が FA-CC-003 及び 005 にしかないようによめるため, 当該部分の記載を見直すべきと考える。
 - FA-CC-003 及び 005 には 225°C~250°C までの温度における設計用強度・物性値の記載があるため, 上記のように記載しているため, 特に問題ないと考ええるが, 誤解のないような記載を検討する。
- 附属書 BC では, SM490A 材の低温強度に関する資料が追加となっている。SM490 材については, SM490A の他に SM490B, SM490C があるが, JIS 規格においてシャルピー試験の要件が課せられているのは SM490C のみである。そのため, ここでは, A 材に限定せずに SM490 とした方がよいのではないか。
 - SM490A については, F013 の改定時にデータを取ったため, 表記している。
 - JIS の記載について確認し, 必要に応じて当該箇所の見直しを行うこと。

(7) 原子燃料サイクル専門部会の中間報告資料について

松本幹事より, 中間報告の資料について F3SC24-5 に基づき説明があった。その内容でサイクル専門部会へ中間報告を実施することについて決議した結果, 承認された。

7. 今後の予定について

次回の輸送容器分科会は, 2011 年 2 月 15 日午後を開催する。

以 上